

年間第 3 3 主日

「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。その日、その時は、だれも知らない」。

マルコ 13・31

皆さん、今日与えられた福音書の箇所は先週の続きです。先週の箇所は一人のやもめの献金についての話でした。イエスはエルサレムの神殿に行き、その境内で当時の社会的・宗教的指導者たちと対決しました。イエスは彼らの中に何も真実な信仰を見出せませんでした。そしてそのあとに出会ったあの貧しいやもめの信仰だけがイエスの心を打ちました。

さて今日の箇所でイエスはこう言われました。「**天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない**」。これが今日のイエスの約束の言葉です。

イエスの言葉をマルコ福音書の中で思い起こしてみましょう。マルコ福音書でのイエスの第一声は、「**時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい**」でありました。マルコ福音書は他の福音書と比べるとイエスの長い説教をあまり多く伝えていません。でもマルコ福音書は、イエスが出会った貧しい人、病人や障害のある人、弱い立場の人たちへの励ましの言葉をたくさん載せています。

例えば、イエスは中風で動けない人に「子よ、あなたの罪はゆるされる」「起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と言いました。イエスは汚れた霊を追い出した人には「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたをあわれみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせない」（5・18－19）と語りました。十二年出血の止まらない病気を患っていた女生には「**娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい**」（5・25－34）死んだ少女と思われた女性には「タリタ・クム（＝少女よ、起きなさい）」（5・35－43）と語りました。

そして、弟子たちに向けて語られた言葉もたくさんあります。「わたしについてきなさい」（マルコ 1・17）

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（8・34）「すべての人に仕える者になりなさい」（9・35）「すべての人のしもべになりなさい」（10・44）とされました。

これらの言葉には、イエスの思いが込められ、イエスの心が表現されています。すべての人、特に弱い立場に置かれた人に対するイエスのいつくしみの心です。これらの言葉は決して滅びません。

すべては過ぎ去り、滅び去っても、決して滅びないものがあります。それは今のわたしたちにとって、何でしょうか？考えましょう！

使徒パウロは一コリント13章8節で、「**愛は決して滅びない**」と言いました。これはとても大切な言葉であり、キリスト者の信仰の核心ではないでしょうか。あらゆるものは過ぎ去っても、愛だけは永遠の価値があるものとして残ります。わたしたちはそこに希望と信頼を置いています。さらにパウロのもう一つの言葉も思い出します。

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」（二コリント4・18）

皆さん、今の世はあまりにも目に見えるものだけを追い求めていないでしょうか。永遠のものを追い求めるのではなく、形があり、過ぎ去ってしまうものだけを追い求めています。いかに良いものを手に入れ、いかに便利に快適に生活しますか。わたしたちキリスト信者もある程度までそういう現代の風潮に流されています。確かにわたしたちにとっても目に見えるさまざまなものがある程度は必要です。しかし、同時に、決して滅びないもの、過ぎ去らないものは何か、そう問い続けて生きるのが、わたしたち信仰者の生き方なのです。そのように私は強く思っています。

わたしたちが永遠に過ぎ去らないものを求めて歩み続けることができますよう、今日ご一緒に祈りましょう。

